

概 要
-----

## 1. 本報告書の位置づけ

国立市南部地域整備基本計画の策定にあたり、市民参加の手法の一つとして市民討議会の活用を検討し、社団法人立川青年会議所の協力を得ながら実行委員会の運営で実施した。

本報告書は、国立市南部地域整備基本計画の策定に向けた市民討議会実行委員会設置要綱に基づき、「南の風トーク～くにたち市民討議会～」の結果を実行委員会がとりまとめ、国立市に提出するものである。

## 2. くにとち市民討議会の目的

市では基本計画を策定するにあたり多様な市民意見を参考にしたいと考え、新たな市民参加手法として注目されている市民討議会を試みることとなった。

くにたち市民討議会は、南部地域の整備のあり方に関して市民からの提案を南部地域整備基本計画の参考とすることを第一の目的とし、さらに、市民討議会という手法について今後の市民参加の機会拡大の有効性を検証・評価することを第二の目的として実施した。

## 3. くにとち市民討議会の実施

「南の風トーク～くにたち市民討議会～」は、平成21年2月21日(土)及び22日(日)の2日間にわたりくにたち南市民プラザで実施し、2月21日は36人、2月22日は34人の参加を得た。

参加者を5人程度の小グループに分けて、「南部地域のまちづくり」という大テーマに基づき順次発展的に関連するような次の6つの小テーマについて話し合いを行った。

2月21日

- ①南部地域の魅力について
- ②南部地域の課題について
- ③南部地域を広く市民に知ってもらうにはどうしたらよいか?

2月22日

- ④南部地域を住みやすくするにはどうしたらよいか?
- ⑤南部地域を豊かにするにはどうしたらよいか?
- ⑥南部地域を住みやすく豊かにする、を実現するためにはどうしたらよいか?

#### 4. 話し合いの結果

話し合いは、参加者をAとBの2つの大グループに分け、さらに5人程度の小グループとして2日間で6つの小テーマについて話し合いを行った。

グループで出された意見をまとめながら3つの意見と残したい意見とをまとめた後に、AとBの大グループごとに発表を行い、意見に対して投票を行った。

AとBの大グループでの投票の結果における上位3位の意見の結果を次に示す。

なお、市民の声が適正に報告書に反映されるよう努め、話し合いの結果は、表現の削除や変更は行わず、明らかな誤字は修正したが片仮名には意図がある場合があるため修正は行っていない。その他の意見も含めた分析については、第2章を参照願いたい。

##### (1) 南部地域の魅力について

グループ	順位	票数	まとめ
A	1	14票	自然・歴史を活かした観光地
	2	10票	農業体験ができる(田植え、稲刈り、梨もぎ、魚釣り)
	3	8票	多摩川周辺からの景観
	3	8票	まちづくりから里づくりへ無限の可能性がある。
B	1	15票	魅力がどんどん失せている(乱開発、こまぎれ住宅) 更に倉庫群やバイパス
	2	12票	豊かな自然(多摩川・水田・湧水) や谷保天などは心のよりどころである。
	3	11票	歴史、文化を遺す地域である

##### (2) 南部地域の課題について

グループ	順位	票数	まとめ
A	1	13票	豊かな自然と歴史の保護
	2	12票	廃棄物処理場の規制
	3	9票	未来につながる企業、設備
	3	9票	南北間交流、ショッピング、観光客の交通手段・道路問題
B	1	13票	国立らしい景観づくりを南部にも。市の花、桜を南部へも植樹
	2	12票	生活の基本施設：交通、医療、買物
	3	11票	市全体のマスタープランの中における南部地域の位置づけが不透明
	3	11票	ハコモノはいらない。赤字出たら誰が責任取るの。

##### (3) 南部地域を広く市民に知ってもらうにはどうしたらよいか？

グループ	順位	票数	まとめ
A	1	15票	イベントを企画する(市民参加の実行委員会形式で) (例) 花火大会、ホテル、ヤキイモ大会、ウォーキング、たこあげ大会、オリエンテーリングなど
	2	11票	継続性、定期性、頻度高のイベント (受信者メリットのあるイベント)
	3	9票	市報、公共施設及びマスメディアによるPR
B	1	14票	基本構想と情報がない。知ってもらうために…目的は何か。
	1	14票	開発の後始末、今後はどうつなげるか
	3	12票	南部の情報少ない。さらに、コミュニケーションを図るのが先決

(4) 南部地域を住みやすくするにはどうしたらよいか？

グループ	順位	票数	まとめ
A	1	18票	移動手段の整備 ・多様な交通手段（歩きやすい買物道路、カート、自転車） ・くにおバスの増発（矢川、谷保）北を減らす
	2	15票	都市農業を維持する為の政策・方法の強化
	3	7票	生活に便利な施設 ・診療所、交番、ミニスーパー・ショッピングセンター
	3	7票	交通網の整備（バス等の公共交通）
	3	7票	農業従事者と一般住民のコミュニケーションによる合意形成
B	1	14票	農地・緑地保全、農地管理を市で一元化。 緑地の市民参加型保全策を。
	2	12票	清化園跡地利用 病院、銀行、郵便局、警察署等
	2	12票	行政指導で医療、福祉、介護施設等を強制配置 →環境がよいのでらしきとして福祉重点

(5) 南部地域を豊かにするにはどうしたらよいか？

グループ	順位	票数	まとめ
A	1	16票	条件整備、進んでない地域をうきぼりにする。 自由度、選択肢、残された時間
	2	13票	暮らしに農業を取り入れる （谷保天神の梅園、家庭菜園、生ゴミ利用システム、桃の花）
	3	10票	農産物で収入増 地産地消、高付加価値品
B	1	11票	インフラ整備を進める。東京だけは人口増続く。歩車道分離。残すべき農地以外の優良宅地化、建築指導。総合的な交通手段確保。
	2	10票	次世代を考慮した、自然を守る開発・時間をかけた（たっぷりかけてほしい）柔軟な方針
	3	9票	心の豊かさを限定的にでも残す 援農体験、援農支援に市の補助を

(6) 南部地域を住みやすく豊かにする、を実現するためにはどうしたらよいか？

グループ	順位	票数	まとめ
A	1	14票	ショッピングセンターの企画内容（地元住民参加）
	2	13票	南北格差を市民全体で認識。資金を南部に集中投入（北へは少しおくらせる）北の市民は少しがまんしてもらおう
	3	9票	魅力ある地域の活性化 特色ある行事の拡充
	3	9票	農業の保全、活用（学校給食素材、体験学習、観光農園、梨など）
B	1	14票	基本構想をわかりやすく絞り、市民がもっと参加できるようにする。行政は、相続と後継者の問題を強力に推し進める。南部にひとつ早急に見どころをつくる。
	2	12票	大改造計画をすすめる ①高速道南側はすべて準工業地化 ②南部住民を旧甲州街道沿いに移住 ③南武線を高架化、高速沿いに移し新駅
	3	11票	「水・緑・動植物」の保全強化を推進していく（教育・安心・安全につなげる）

## 5. くにたち市民討議会の有効性

今回の「南の風トーク～くにたち市民討議会～」は、ドイツで行われている市民参加手法である「プラーヌクスツェレ」をベースに日本独自のアレンジを加えた「市民討議会」である。

国立市では初の試みであり、市民討議会の実施においては、公平性、中立性を保つため実行委員会で運営し、運営する側も参加する側も初の試みであり心配していたが、いざ小グループでの話し合いが始まるとそんな心配もよそに積極的な話し合いが行われ、回を増すごと質の高い話し合いが行われた。

それぞれのテーマにおけるまとめの意見は、多種にわたり中には特徴的な意見もあるが、南部地域整備基本計画の策定に参考となる内容を備えているまとめも多い結果となった。

参加された方からは、「二日間は疲れたが、参加してよかった」という声が多く聞かれたとともに、参加者の事後アンケートによると、今後市民討議会の案内が届いた場合には日程が合えば参加すると答えた方が72.2%であり、ほとんどの方がまた参加してもよいという反応を示した。また、市民討議会の実施については推進したほうがよいと思うと答えた方が88.9%であることから、参加者の市民討議会の満足度はおおむね高く、市民討議会の参加意識も極めて高いと言える。

また、今回のくにたち市民討議会は、次のことからより公平な意見抽出することができたと言える。

- ①実行委員会は、傍聴を可能にしたことや会議録を公開するなど透明性を確保した。
- ②市民参加の対象者は、無作為抽出により選出した。
- ③手法は、参加者を2つの大グループに分け、そのうちの小グループの構成は、テーマごとにメンバーをばらばらに混ぜ、発表においても2つの大グループごとに行うなどプラーヌクスツェレと同じ手法を用いた。

なお、詳細については第3章を参照願いたい。

